こども学習サポート
＞＞外国につながる子ども学習サポート＜＜

今年はコロナの影響で子どもたちの学習機会が著しく少なくなっています。学校の教育現場でも少ない学習時間からか一方的な学習の押し付けが多くなっているようです。このような中で外国籍の子どもたちは益々、学習理解度の低下が目立ってきています。私たち学習教室のメンバーは少しでもフォローアップできればと奮闘している状態です。教育の機会均等は絶対的条件です。これを実現するためには学校教育だけに任せずに豊かな未来を創造してくれる子供たちに希望ある未来を持てる能力をつけてほしいものです。学習教室へ参加する子どもたちは様々な問題を抱えています。私たちの社会が解決すべき問題があります。彼らの実情を直視して問題解決にともに協力してくれる人を強く望んでいます。かわいい子どもたちと一緒に勉強しましょう。

―日本語教室がスタート―

にんじゃ日本語教室

心待ちにしていた今年度の教室には、久々に出会える嬉しさを隠しきれない学習者とボランティアの笑顔が溢れました。このような時だからこそ、もっと日本語を理解したい!! 伝えたい!!の想いが強くなったように感じられます。教室開催については、諸条件の下で気を引き締めながらの対応が沢山ありましたが、新たなスタイルを考える機会にもなりました。日本語教室でのつながりが、今後も継続可能な状態であることを願うばかりです。

日本語教室にじ

コロナの影響で半年以上教室は開催できませんでしたが、その間、学習者の方達から何度も「何時から始まるのですか？」、「日本語忘れてしまうよ」とメールや電話を頂きました。日本語を学びたいという学習者の方々の強い思いを改めて感じた休みとなりました。

現在、月曜教室5クラス、個別対応7クラスで約20名位の方が参加されています。コロナ対策のため、勉強後の交流ティータイムも休憩もない90分ですが、とても楽しい時間になっています。コロナでまるーむが閉鎖されませんように。

Together

現在ほど医学が発達していない時代に天然痘やスペインかぜにどう立ち向かってきたのでしょうか★人類は何度も感染症と戦い克服してきたので、新型コロナも克服できるはずです●医学とは別に仕事や勉学をはじめ生活様式も変化させざるを得ません◆仕方がないというよりも、これは前向きに捉えないと・・リモートなんて無理無理では取り残されてしまいますよ△感染症のおかげで観戦しようともできない、なんて駄洒落は生き残れるのか？書きながらおじさんは汗腺から加齢臭を伴う汗をかいています■これではダメだ！世界に通じるジョークが言えるようにKISの活動で柔軟な発想ができるようにしないと(???) (R)

甲賀市国際交流協会　事務局　〒528-0005　甲賀市水口町水口6053　甲賀市役所　別館2階
TEL：0748-63-8728　FAX：0748-70-6468　月～金9：00～17：30

第54号

KIS通信

甲賀市国際交流協会広報部
TEL:0748-63-8728 FAX:0748-70-6468
Email: mifa@mx.biwa.ne.jp
URL: https://kis-koka.org

KOKA INTERNATIONAL SOCIETY

10/24（土）「シンガポール」ってどんな国？

コロナ禍で事業やイベントの計画、実行が難しい中、海外交流チームでは万全のコロナ対策を講じ、会員の皆様を対象に　「シンガポールってどんな国？」というイベントを開催しました。

シンガポールのホストタウンとして昨年の甲賀市による”市民ボッチャ交流大会”に続き、さらにシンガポールという国について学び理解を深める機会をと、シンガポール出身で守山市在住のジョン・リー・中山さんにお話し頂きました。

小さな国土に500万人以上が暮らす多民族国家のシンガポールの歴史や風土、国民の幸せを願う”調和と繁栄”に基づく様々な政策等、観光だけでは知ることのできない大変興味深いお話しを聞くことができました。また当日はZoom配信も行い、シンガポールからの参加もあって楽しい交流になりました。

来年ホストタウンとして、シンガポール選手団の皆様をお迎えできることを楽しみにしています。

--ゲストより一言--

My honored to introduce my green city, country Singapore to a 4 seasons city, koka in Shiga. I’m home in heavenly SG! (SinGapore & ShiGa = SG) Heaven meet Heavenly! Sharing never ends.

（訳）

私の故郷、緑豊かなシンガポールを四季のある滋賀県甲賀市の皆さんにご紹介できたことを光栄に思っています。シンガポールも滋賀県も素敵で、私にとってはふるさとです。今後も末永くお互いの素晴らしさを伝えあいましょう！

～参加者の感想～

竹灯籠の和柄の細かい作りと切り絵のセンスにまずびっくり。おもしろいと思ったのは、「並ぶ趣味」があると聞き日本人だけかと思っていたのにやはりアジアかとおかしくなり、「罰金の国」と聞きやっぱりと思い、『日本は何の国？』『日本で一番驚いたことは？』と聞きたくなりました。

シンガポールホストタウン交流事業　メッセージを送ろう！

昨年の秋、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前視察や市民とのボッチャ交流のために、シンガポールから６人の訪問団員が甲賀市に来られ、協会では、英語通訳、歓迎交流会の運営等のお手伝いをさせていただきました。

「シンガポールってどんな国？」のイベント当日、甲賀市からシンガポールの選手の皆さんにメッセージを送ろうと、動画の撮影も行われました。

これからも、甲賀市とシンガポール、お互いの市民が様々な分野で交流し、友好を深めていければいいですね。

シンガポールの選手の皆さん！甲賀市でお待ちしています！

～コロナを乗り越え海をこえての交流～

9/19（土）甲賀市中学生交流事業 ミシガン州3都市オンライン交流会

9月19日、ミシガン州の姉妹都市トラバースシティ市、マーシャル市、デウィット市と甲賀市の中学生がオンラインで交流しました。甲賀市の中学生は今年1月、中学生姉妹都市交流事業でミシガン州を訪問しましたが、2月末のミシガン州の生徒の来日は新型コロナウイルス感染症のため中止になってしまいました。長く続いている交流を「残念ながら中止」で終わらせるのではなく、今だからこそできる交流を考えようと、市、教育委員会とも協議の上、Zoomでの交流が実現しました。

当日は両国の生徒たちが各家庭からZoomで参加しました。甲賀市は土曜日朝9時、ミシガン州は金曜日夜8時という時差もありましたが、甲賀市の生徒は、ミシガンの生徒が来日していたら紹介したかった、学校や家庭、甲賀市の様子などの写真や動画を準備。最初は緊張していましたが、相手の家族が登場したり、一緒に歌を歌ったりと徐々に緊張もほぐれ、笑顔いっぱいの交流になりました。

最後はお互いに今回のコロナの影響なども話し合い、実際には会えなかったけれど本当に良い交流になったと思います。

今回のオンライン交流の成功により、今後の交流のあり方についても幅が広がりました。

実際に移動ができなくても思いがあれば交流ができるということです。今年度もミシガン州や韓国利川市への中学生の派遣・受け入れは中止になりました。

しかし実際に渡米、渡韓しなくても、より多くの生徒がオンラインで繋がる機会を得られるのではないでしょうか。今後もオンライン交流を広げられるよう検討していきたいと思っています。

10/3（土）ZoomでMichigan cafe

新型コロナウィルス感染症の影響で、人と人が行き来する交流が難しい中、当協会では恒例事業であるMichigan cafeを何とか開催できないかと、ミシガン州立大学英語センター（English Language Center）の先生方と打ち合わせを重ね、「ZoomでMichigan cafe」を企画しました。

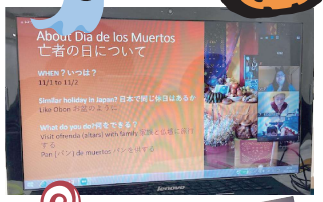
当日はELCのマーク先生、キャロル先生と甲賀市から14名が自宅等からZoomで参加。日本時間は3日朝ですが、アメリカミシガン州は前日2日夜8時と、時差を身近に感じる交流となりました。

最初にマーク先生からミシガン州立大学や留学プログラムについての説明がありましたが、写真や表を使った大変分かりやすいものでした。続いて質疑応答になり、国別留学生数やオンライン授業などについて説明を受けました。やはりコロナの影響は大きく、大学生活もままならないとのことでした。

このコロナ禍の中でも国を越えて新しい形での交流ができるということ、また長時間の移動が難しい方や海外に行く時間が取れない方などには今後、オンラインでも交流ができるという新しい発見にも繋がる貴重な機会となりました。

なお、ミシガン州立大学英語センターではオンライン講座も開催されるそうです。詳細は
https://elc.msu.edu/online-american-english-and-culture-program/をご覧ください

10/31（土） 小学生の為の国際理解講座 ハロウィンパーティー



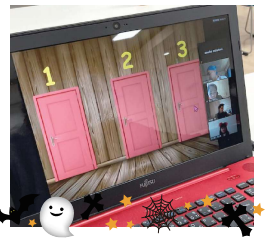
毎年100名以上の子ども達と約30人の様々な国のゲストが参加してくれるハロウィンパーティー。今年はコロナ禍で、第一波の時には既に中止が決定していました。このまま中止で良いのか、何か方法がないか考えた結果、世界まなびじゅくで一度経験したZoomを使って行うことにしました。とは言え、何人が参加してくれるのか、スタッフやゲストと何回もZoom会議をしながら企画したプログラムが果たしてうまくいくのか不安たっぷりで当日を迎えました。当日は20名の小学生が参加してくれました。ゲストは5人、そのうちの1人はアメリカから参加してくれました。これはオンラインならではです。

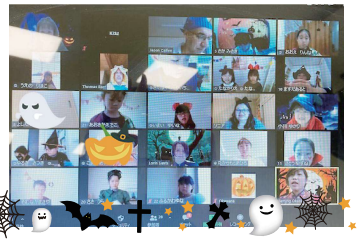
子どももゲストも仮装をして自宅から参加、画面には様々な仮装をした姿が並びました。ハロウィンクイズやゲストから英語を習ったり、仮装コンテストもできました。アメリカから参加のゲストには、ハロウィンに似たメキシコの「死者の日」というお祭りを教えてもらいました。みんなで一緒にダンスもできました。途中、5つのグループに分かれてゲストが工夫を凝らして準備してくれたゲームもしました。

90分のパーティー、「最初は緊張したけど楽しかった」「帰りたくなーい」とみんな、なかなかZoomから退出しようとせず、終わるのがさみしいくらいでした。

手探りのZoomイベントで、うまくいかないところもありましたが、それでも、子どもたちの喜んでいる様子を目の当たりにできて、やってみて良かったと思います。

「できない」「新しいことは不安」そんな状況でも、あきらめずにチャレンジしたらなんとかなる、私たちがつくづく感じました。参加した子どもたちにもその気持ちが伝わっていたらよいなと思います。





―「多文化共生の地域づくり」を推進―

2005年に甲賀市国際交流協会が発足し15年。ここ数年は、市の担当課や国際交流協会だけが地域の多文化共生を推進するのではなく、学校や地域でも様々な取り組みが行われるようになってきました。11月は、多文化共生の取り組みや国際交流協会の活動紹介をさせていただく機会をたくさんいただきました。

・10月31日（土）～11月1日（日）水口交流センターで行われた伴谷地区の文化祭に、活動紹介のポスターとパネルを展示し、コロナウィルスに関する多言語のリーフレットなどを設置しました。

・11月6日（金）東近江国際交流協会さんとNPO法人まちづくりネット東近江さんが、当協会の取り組みについて聴きに来てくださいました。まちづくりの中間支援組織と同じフロアに国際交流協会があることから、国際交流協会だけで多文化共生を進めるのではなく、「一緒にしましょう」と、まちづくりネットさんと連携しておられるとのことで、こちらが勉強させていただきました。

・11月12日（木）県立水口東高等学校1年生「甲賀夢未来探究」で、18名の生徒が自分たちで調べ、考察した「多文化共生」や「やさしい日本語」について、順に発表し、市や当協会の取り組みについて学びました。ゲストには、中国ご出身の曽田理事、日本語ボランティアの高野理事にお越しいただき、生徒の質問にも答えていただきました。

・11月13日（金）竜王町の人権啓発セミナーで、ペルー出身の上原理事と事務局長の大河原がお話をさせていただきました。上原さんは、三重県の国際交流財団で外国人の様々な相談にものっておられ、現状をお話くださいました。

・11月14日（土）市民講座にて、甲賀市多文化共生推進計画を実行する一つの団体として、市と一緒に取り組みを紹介させていただきました。

・11月17日（火）水口地域の地域マネージャーの研修で、「多文化共生の地域づくり」について一緒に考える機会を頂きました。今後さらに地域と連携していくことの重要性を共通理解しました。

●災害時多言語情報センター設置に関する情報伝達訓練
11月15日（日）甲賀市総合防災訓練が行われ、「情報伝達訓練」として、災害時多言語情報センター設置に関する連絡体制について訓練しました。今回は、役員への電話やメールでの連絡だけでしたが、いざというときに、すぐに連絡ができる体制を確認しておく意味では、とても重要な訓練だったのではないでしょうか。